

2021年6月22日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2021年5月 マンスリー レポート

集計企業数 **50** 社

① 売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	63,376,679 万円	100.0%	99.3% (97.1%)	61,870,883 万円	98.5% (96.5%)
食 料 品	55,630,854 万円	87.8% (86.9%)	98.9% (94.4%)	54,270,062 万円	97.9% (93.6%)
農 産	8,302,989 万円	13.1% (12.8%)	94.5% (91.6%)	8,106,399 万円	93.6% (90.8%)
水 産	5,141,923 万円	8.1% (8.0%)	100.3% (98.7%)	5,017,732 万円	99.1% (97.7%)
畜 産	7,213,011 万円	11.4% (11.1%)	96.0% (90.5%)	7,036,745 万円	94.8% (89.6%)
惣 菜	6,621,577 万円	10.4% (10.3%)	110.3% (110.3%)	6,397,308 万円	108.9% (108.9%)
日配食品	12,639,033 万円	19.9% (19.7%)	97.3% (93.0%)	12,341,790 万円	96.1% (92.2%)
加工食品	15,712,322 万円	24.8% (25.0%)	99.2% (91.9%)	15,370,088 万円	98.8% (91.3%)
生活関連	3,552,750 万円	5.6% (5.9%)	92.9% (98.5%)	3,473,979 万円	92.5% (98.2%)
衣 料 品	1,300,937 万円	2.1% (2.2%)	106.7% (152.3%)	1,283,841 万円	108.8% (161.6%)
そ の 他	2,892,138 万円	4.6% (5.0%)	114.6% (144.0%)	2,843,001 万円	115.5% (146.0%)

② 数 値

全店総売上高	63,376,679 万円	店舗数	4,939 店舗
総売場面積	9,990,635.4 m ²	総従業員数	276,058 人
店舗平均月商	12,831.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,078.4円 (98.2%)
月間m ² 売上(前月)	6.3 万円 (6.1万円)	平均売場面積	2,022.8 m ²
月間坪売上(前月)	21.0 万円 (20.1万円)	パート比率(前月)	76.5% (76.4%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 5月の天候概要について、気温は北日本から西日本まではほぼ前年並みとなり、沖縄・奄美で記録的に高くなった。降水量は西日本でかなり多く、日照時間は北日本と東日本の日本海側でかなり少なかった。東海地方から西の地域では5月中旬に梅雨入りをし、特に近畿地方では統計史上最も早い梅雨入りとなった。
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では野菜全体が中旬から下旬にかけて高値傾向となり、大根、はくさい、キャベツが安値で推移、じゃがいもや玉ねぎ、トマトが高値で推移した。果物は、全体では安値で推移したなか、国産果実ではりんごが安値、メロンが高値となり、輸入果実ではバナナが安値で推移した。水産物は、卸売市場への総入荷量は前年同月比で横ばい、卸売価格は強含みとなった。畜産物では牛肉と鶏肉が高値となり、豚肉が安値となった。
- ・ 土・日・祝日の合計は13日で、前年同月と変わらなかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連について、東京都・京都府・大阪府・兵庫県に前月発令された緊急事態宣言は12日に愛知県・福岡県、16日に北海道・岡山県・広島県、23日に沖縄県が加わって全国10都道府県が対象となった。商品動向全体では、前年の特需の反動減についてのコメントが見られた一方で、緊急事態宣言が発令された地域では、折込チラシの自粛や内食・中食需要の再拡大についてのコメントが多く見られた。

《 商品動向 》

○農産

- ・ じゃがいもや玉ねぎが高値で推移したため、土物類の売上は好調であった。
- ・ 前年からの反動と相場安の影響により、はくさいやキャベツなどの大型野菜が不調であった。
- ・ 季節品の梅は前年不作の反動により好調であった。
- ・ 国産果物では、いちごが不調となり、スイカとメロンは地域の温度差により好不調が分かれた。輸入果実ではキウイフルーツとパイナップルが好調であった。

○水産

- ・ マグロを中心とした刺身類が好調であった。
- ・ かつおは前年不漁の反動により好調であった。
- ・ 前年好調だった鮮魚切身や冷凍魚、シーフードミックスは反動減が見られた。
- ・ 海藻類は不調であった。

○畜産

- ・ 牛肉は好不調の評価が分かれたなか、用途別では焼肉用が概ね好調であった。
- ・ 豚肉は相場環境の影響により、国産豚が好調であった。
- ・ 鶏肉は好不調の評価が分かれ、挽肉と加工肉では前年の反動減が見られた。

○惣菜

- ・ 昨年の反動により全般的に好調となり、特に米飯類や揚げ物類が好調であった。
- ・ 気温環境により、涼味麺や冷惣菜が好調であった。
- ・ 「家飲み」向けのスナック類や焼き鳥などのおつまみ惣菜が好調であった。

○日配食品

- ・ チルド麺、漬物、牛乳、乳製品などに反動減が見られた。
- ・ アイスクリームは地域の温度差で好不調が分かれた。
- ・ 練製品、佃煮、冷凍食品、デザート類が好調であった。

○加工食品

- ・ 乾麺類や粉物類、米の反動減についてコメントが見られた一方、商品供給が安定したことで動きが良かったとするコメントも見られた。
- ・ 家庭内での調理需要の継続で、調味料が好調だった。
- ・ 飲料は地域の気温差で好不調が分かれた。

○ゴールデンウィーク・こどもの日の動向について

- ・ 地域の新型コロナウイルスの感染状況によって動向が異なり、落ち着いている地域ではバーベキュー関連商材や手土産ギフト商品の動きが良かった。
- ・ 大量目の商品よりも小量目の商品動向が良く、刺身の盛り合わせや寿司材料、握り寿司やスイーツ類などが好調であった。
- ・ 柏餅は概ね計画通りの販売実績となった。

○母の日マーケットの動向について

- ・ フラワーギフトの予約実績は概ね好調であった。
- ・ 当日のごちそうメニューでは、手作り寿司材料や握り寿司、スイーツ類が好調であった。